



▲空から見た成沢要害。南から撮影



▲東城の堀状遺構

◀成沢要害縄張図 作図：青木義一

問合せ／歴史文化財課 (☎306・8132)

水戸の城さんぽ

其の十

成沢要害

新発見！

水戸唯一の山城？

水戸の大地は、低地、台地、丘陵地の3つの地形が大半を占め、山地はわずかな面積しかありません。山地には山城が築かれますが、それ以外では平城と平山城に限られるため「水戸に山城はない」というのが定説でした。しかし昨年、水戸で初めて、山城とみられる遺構が、茨城県郭研究会によって確認・発表されました。それが「成沢要害」です。

成沢要害は、成沢町の寺院・東漸院の背後の山に築かれています。ここから木葉下町にかけては鶏足山塊の山裾に当たり、市内唯一の山地が広がっています。

成沢要害を空から見てみましょう。要害は西城と東城の二つの城に分かれています。まずは西城の頂上標高114m)に向かって急な斜面を直登していきます。そこには石の祠(金砂神社)があり、ここが本丸と考えられています。遺構はほぼ認められませんが、しかし、この本丸の東西や北側の尾根には、堀や腰曲輪(平坦面)らしき遺構が複数か所認められます。

隣は東城の頂上(標高86m)、本丸は広さはありますが、遺構らしきものは認められません。しかし、頂上南側の尾根筋には掘らしき遺構がハッキリ認められます(写真)。山城と断定するにはもう少し詳細な検証が必要ですが、山を人為的に改変したことは確実に、山城である可能性は高いと言えるでしょう。さて、成沢要害が山城だとして、いつ、誰が、何

のために築いたのでしょか。関連する記録は全くないため想像の域を出ませんが、戦国時代、江戸氏が佐竹氏の侵攻に備えて築いた可能性があります。

実は成沢要害の北側を流れる前沢川は、佐竹領と江戸領の境界でした。そして川を挟んで約1km北側の台地上(城里町台青木)では、平成5年の発掘調査によって堀などの遺構が見つかり、城館の存在が明らかになりました(仮に台青木城と呼びます)。つまり、前沢川をはさみ、佐竹氏の台青木城と江戸氏の成沢要害が、わずか1kmの距離で対面していたことになり。台青木城は平山城で居住性が高いのに対し、成沢要害はいかにも急ごしらえの城といった構造で、居住するには向きです。台青木城を牽制する目的で臨時的に築かれたのかもしれませんが、佐竹氏と江戸氏の対立を物語る、興味深い城の一つといえます。

城は昔から存在が知られているもの——という印象がありますが、成沢要害のように新たに見つかる城も少なくありません。そしてこうした発見が、市内の歴史をより具体的に理解するための重要なカギとなるのです。

歴史文化財課 関口慶久

※成沢要害を含む周辺の山は未整備です。大変危険ですので、初心者は絶対に登山しないでください。



【発行】水戸市 ☎029・224・1111(代表)
〒310-8610 水戸市中央1-4-1
ホームページ / https://www.city.mito.jg.jp/

【編集】みとの魅力発信課 ☎029・232・9107
☎029・224・5188 kouhou@city.mito.jg.jp